

- マツダ、「アクセラ」のエアバッグ展開時に乗員が負傷する恐れがあるとしてリコール 03年5月16日～06年9月4日に生産した7万4231台
運転席エアバッグにおいて、モジュールカバーのブランドエンブレムの材質が不適切なため、加水分解により劣化することがある。そのため、エアバッグ展開時に破損して飛散し、乗員が負傷する恐れがある。
- トヨタ自動車、「アルファード」「ヴェルファイア」のアイドリングストップシステムに不具合があるとして再リコール 17年12月13日～21年6月11日に生産した5万0983台
アイドリングストップ搭載車において、制御プログラムが不適切かつバッテリーの断熱が不十分なため、長時間アイドリングによりバッテリー温度が高い状態で使用を繰り返すと、劣化抑制の再生充電が不足してバッテリーが異常劣化することがある。そのため、アイドリングストップ後、再始動できなくなる恐れがある。
尚、アイドリングストップシステム不具合に関するリコールは19年10月30日付けで2万3000台を対象に届け出ているが、新たに原因が判明し、改善措置の内容が不十分であったことから、対象を拡大して再度届出た。
- メルセデス・ベンツ日本、「Aクラス」等計18車種のステアリングシャフトに不具合があるとしてリコール 17年1月17日～18年1月5日に輸入した3090台
ステアリングシャフトにおいて製造機器の使用が不適切なため、ユニバーサルジョイントのベアリングを圧入する穴径が大きいものがある。そのため、使用過程で操舵時に遊びが発生して異音が発生し、最悪の場合、ユニバーサルジョイントが脱落することで操舵不能になる恐れがある。
- 日産自動車、「NV350キャラバン」・いすゞOEM「コモ」のトルクコンバーターに不具合があるとしてリコール 17年5月15日～19年10月30日に生産した3万2301台
オートマチックトランスミッションにおいて、トルクコンバーターのロックアップクラッチを固定するリベット寸法が不適切な為、強度不足で破損することがある。そのため、リベットの破損片による摩擦材の異常摩耗等が発生して、トルクコンバーターのロックアップができなくなり、警告灯が点灯。最悪の場合、摩耗粉によりオイルストレーナーが詰まり、オイルポンプの油圧が不足することで走行不能となる恐れがある。
- BMWジャパン、「MINIクーパDクラブマン」等、ディーゼルモデル6車種に燃料漏れがあるとしてリコール 16年3月1日～20年7月7日に生産した3万1172台
組み立て工場にて、燃料ホースの取り付け工程が不適切なため、燃料ホースとインテークパイプもしくは、エンジンカバーの間隙が狭い状態で取り付けられたものがある。そのため、燃料ホースが時間の経過とともに摩耗し、最悪の場合、燃料漏れが発生する恐れがある。
- BMWジャパン、「318i」等計9車種の運転者席用エアバッグに不具合があるとして再リコール 98年6月8日～00年6月29日に生産した1万1446台
尚、今回の不具合については2020年1月22日にリコールを届け出ているが、改善措置が不十分であったため、改めて届出を行う。
運転者席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、吸湿防止が不適切なため、ガス発生剤が吸湿する可能性がある。そのため、使用過程でガス発生剤が吸湿や乾燥を繰り返した場合など、衝突時等のエアバッグ作動時に正常に展開しない恐れがあり、インフレーター内の圧力が上昇して容器が破損することにより、乗員が負傷する恐れがある。
- ルノー・ジャポン、「メガーヌR.S.」の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 18年1月23日～20年7月13日に生産した1380台
尚、今回の不具合については2021年4月13日にリコールを届け出ているが、新たに対象となる車両が判明。対象を拡大して再度リコールを届け出た。
燃料ポンプのインタンクユニットにおいて、樹脂製インペラとカバーのクリアランス設計が不適切なため、燃料温度の上昇によって樹脂製インペラが変形し、カバーが接触することがある。そのため、燃料ポンプモーターが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。
- ボルボ・カージャパン、「V60」等計7車種について、エンジンが始動できない恐れがあるとしてリコール 19年1月18日～20年11月24日に輸入した5462台
エンジンの低圧燃料ポンプのヒューズの容量設定が不適切なため、エンジン始動準備時に容量不足によりヒューズが切れることがある。そのため低圧燃料ポンプが作動せず、エンジンが始動できない恐れがある。
- スバル、「レヴォーグ」「WRX」「フォレスター」「BRZ」・トヨタOEM「86」の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 18年4月6日～19年4月25日に生産した1万4459台
燃料ポンプのインペラ(樹脂製羽根車)の成形条件が不適切なため、樹脂密度が低くなって、燃料により膨潤して変形することがある。そのため、インペラがポンプケースと接触して燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。